



## 育てたい「聴く」力

校長 吉田 伸吾

校地を取り巻くケヤキやサクラの落葉も一気に進み、あっという間に秋を通り過ぎて、冬が近づいてくるのを肌で感じられるようになりました。

私は毎朝、児童の登校を正門で迎えるようにしていますが、段々と朝の空気も冷えてきているのが分かります。ポケットに手を突っ込んでいる児童に対して「危ないよ、歩いているときは手を出そうね」と話しかける回数も日に日に増えてきました。そろそろ手袋の準備も必要ですね。

時期は12月。本校では、2学期の大きな学校行事も一通り終わり、学期末に向けた取組が行われていきます。そうすると、そろそろ年末だなあと実感するようになってくるのが2学期末でもあります。

さて話はガラッと変わって、今月の話題ですが、人の話を「聴く」ということについて書きます。

「聞く」と「聴く」の違いとは何でしょうか。辞書などで調べると、前者は「自然と耳に入ってくること」で、英語で言うならば「hear」。後者は「意識をして耳を傾けること」ということで、英語で言うならば「listen」。こうした違いがあります。この「聴く」の「意識をすること」にはとても大きな力があるのではと感じているこの頃です。

よく児童から「校長先生はどんな仕事をしているのですか？」と尋ねられることがあります。

そのようなときは「児童のみんなが、学校で楽しく、安心して生活できるようにいろいろなことを整えているんです」なんて、分かるような、煙に巻くような答えをしています。それでも、公にはいくつかの仕事があって、例えば、人や物の管理に関して責任をもつことや、学校を代表して出張に出ることなどがあります。そうした中で、月に一度の全校朝会ですべての児童に向けて講話をすることも児童に直接関わる仕事として大切です。

本校では、国語の学習の一環として、校長講話の「聞き取り名人」という取組を行っています。それは児童が、全校朝会で校長が話したことを聴きとって、教室に戻った後に要点整理と自分の感想をまとめて紙に書くという取組です。校長としては、児童に向けて課題を与えているということになりますので、いい加減な話はできませんし、かと言って、小学1年生から6年生という成長段階の大きく異なる児童全体に向けての話ですので、簡単すぎても駄目ですし、難しすぎるのもいけません。このことに結構、気を遣うのです。



職員室前に児童の感想があります

先月11月は「大切な名前、大切な自分」というテーマで女優、室井滋さん原作の絵本「しげちゃん」の読み聞かせから、とても大切な自分の名前を好きになるように、自分自身のことも好きになってほしいという話をしました。私の決して上手とは言えない読み聞かせを、本校児童は一生懸命に耳を傾けてくれました。それは先月だけに限らず、どの月でも児童は私の話を真剣に聴いてくれます。中にはうなずきながら聴いてくれる児童の姿も壇上から見えます。当然ながらそうして聴いた児童は、教室に戻っても自分の考えを交えてしっかりとまとめることができているのでしょう。

また、私は毎日できる限り各教室に足を運び、児童の授業の様子をみるようにしています。その中でも、担任の先生の話のしっかりと聴いている児童は、総じて姿勢も良く、ノートを見てもきれいに書くことができている。そして、それは間違いなく学力向上に繋がっているはず。今はとにかく自分の意見を発表したり、主張したりする「話す」ことが求められていますが、最近、やはり学ぶことの本当の基本は「聴く」ことなのではないかと感じています。

「聴」という漢字は、中国語で「聽」と書きます。耳へんにつくりは上から「十」「目」「一」「心」。つまり耳を使うだけでなく、十分に目を使って相手を見て、一心に聴くことが大切だということです。

この「聴く」ことに焦点を当てた教育研究にはまだ出会ったことはありませんが、それぐらい価値のあることだと思える「聴く」こと。その大切さをこれからも児童に話していきたいと考えています。

最後になりますが、学校だよりも平成30年の最終号となりました。今年も保護者、地域の皆様方には、たいへんお世話になり、ありがとうございました。そして、よい年をお迎えください。